

東京都荒川区 1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本区では、全国に先駆けて平成26年より全ての区立小・中学校において導入するなど、「タブレットPCの普段使い」を推進し、子ども達の情報活用能力の育成を育んできた。令和6年度に策定した荒川区「学びの推進プラン（第3期）」では、重点項目「1夢につながる主体的な学びを推進する」において、子どもたちにICT機器の活用により21世紀型能力を身に付けることを教育委員会として掲げ、取り組んでいる。

GIGAスクール構想下で児童・生徒に整備された1人1台端末は、導入が早い自治体では、令和6年度より更新の時期を迎えている。荒川区では、今回で3度目となる端末の選定を行い、その結果「Chromebook」を採用した。併せて、端末にLTEモデルを採用し、学校だけでなく、校外学習の場面や自宅学習においてもどこでもつながる通信環境の整備を目指し、インターネット通信を可能とする環境を整備する。

ICT環境によって実現を目指す学びの姿として、端末の活用にあたっては、「個に応じた指導」の充実を目指していくことが急務であり、「個別最適化学習」を推進していくものとする。具体的な内容として、各学校では、学習ドリル教材に動画で学習できる機能が付いたサービスを区が費用を負担して導入する。このことにより個別の進度に合わせて学習できるように、児童・生徒の学びを伴走する。また、自宅における自学自習のサポート、不登校への支援として学習の基礎・基本を支える学習環境をより一層整備し、「個に応じた学び」の充実を実現させていく。学習ドリル教材だけでなく「Google Classroom」を中心とした様々な学習ツール等のクラウドツールについて、全てを学習eポータル経由とすることで、SSOにより児童・生徒が負担なく1人1台端末にログインできることでさらなる利活用が期待される。教員は、学習eポータル上でツールの利活用状況を可視化することにより、毎日の心理的データ、学習理解度データ等を取ったりすることが可能となり、個に応じた指導に役立てることができる。協同的な学びを推進するために「Google Classroom」「Metamoji Classroom」といった協働学習ツールを使用することにより児童・生徒がお互いの思考を可視化され、分類・整理などを児童・生徒が自ら主体的に行うことによって、学習指導要領が目指す「主体的で対話的な深い学び」の実現の忠助として期待される。

2 GIGA第1期の総括

これまでのGIGA第1期では、「Windows端末」を採用してきた。また、令和2年度より「Google Workspace for Education」を導入した。各学校における課題点としては、教員や子どもたちが端末を安全に安心して使うために、様々なセキュリティーやネットワークに接続するため端末の起動が遅いこと、故障率が高いことが挙げられた。そこで課題点として挙げられた課題の解消を目指し、令和5年度に開催した「次期端末の導入に向けた選定委員会」では、外部有識者、区立学校長、区の幹部職員を選定委員として様々な立場、視点から意見をもらい、端末選定に向けた審査を行った。

「Chromebook」は、「Google Workspace for Education」とのは親和性が高く、端末の起動時間が大幅に短縮できることが期待される。さらに、導入費用が抑えられた分、端末にLTE端末を導入したりや専用のケースを付けたりすることが可能となり、利便性を向上させるとともに故障率を低減させることが可能である。これ以外にもアプリケー

ション、学習ツールの利活用率を調査し、利活用が進んでいないアプリケーションの導入を見送ることとした。各種メーカーから新しいアプリケーションの提案を受け、学校現場に貸出し、試用を進める中で評価が高かったアプリケーションを採用し、利活用率を向上させることとした。

3．1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の積極的活用について下記のとおり実施する。

(1) ICT研修の充実

端末の新規導入に伴って全校研修を令和6年度、令和7年度に実施するとともに、それ以外にも新任、転任者向け研修や夏季の全体教員研修等でICT利活用向上に向けて推進を行う。

(2) ICT支援員の活用の促進

ICT支援員については1校あたり年間全60回訪問するように事業者と契約締結を行っていく。

(3) 1人1台端末の普段使いの取組

全ての区立小・中学校で1人1台端末の日常的な利用に向けた取組みを行っていく。現状では起動が遅いといった問題から日々の利活用を敬遠する教員がいたが、今回新たに導入する端末では、起動時間の問題が解消され、利活用研修等と併せて日常的な利活用を促していく。

(4) デジタル教科書の利用

英語を中心として指導者用については既に全校で利用されている。今後は令和7年度末までに学習者用デジタル教科書や英語以外の教科でのデジタル教科書の利活用を推進していく。

(5) 個別最適・協働的な学びの充実について

下記のとおり、区立全小・中学校で端末の利活用の促進を行う。

学習活動における調べ学習については、現状、多くの授業で活用されているが、各校に、活用事例リーフレットを配布することで、さらなる利活用の推進を行う。

日々の利活用の推進のために、学習端末を使い、児童・生徒が学習内容をまとめたり、発表したりする機会を設けていく。荒川区では、普通教室、特別教室含め全教室にモニター型電子黒板が整備されている。このことを踏まえ児童・生徒の「主体的で対話的な深い学び」につながる学習を推進していく。

「Google Classroom」を用いて教職員と児童・生徒による端末上での活発なやりとりを推進していく。

「Google Classroom」や「Metamoji Classroom」の協働学習ツールを用いて児童生徒同士による端末上での活発なやりとりを推進していく。

学校でスタディサプリ等の学習ドリル教材を用いて、各児童・生徒の特性や理解、進度に合わせて端末上で学習が行えるようにする。

4．今後の計画について

これらの現状等を踏まえ、以下の項目について重点的に取組むことで、1人1台端末の利活用を促進していく。

(1) 教員研修の充実

- ・ 職層ごとに求められる I C T 活用スキルや受講者のニーズに合わせ、I C T 機器を使った情報活用に関する研修会を全ての教員が受講できる体制を構築する。
- ・ Google 教育者資格認定試験の取得に向けた研修会の新設により、各校で 1 人 1 台端末の利活用の中核となる教員を育成する。
- ・ 各校で配置している I C T 教育推進教師研修会や情報担当者連絡会を中心に、個別最適・協働的な学びの充実に向けた具体的な活用事例の共有を図っていく。

(2) 教員の情報機器に関する情報提供

- ・ 校務支援システム等を活用して、端末の利活用の促進方法の事例提示や具体的な情報機器の活用方法の情報提供を行う。
- ・ 「個別最適・協働的な学び」の充実のために、活用事例を一元化してクラウド上で共有する。
- ・ リーディングDX指定校の活用事例、生成AIの活用等、先進的な取組事例を各校に展開する。

(3) 児童・生徒の学びの保障

- ・ 不登校の児童・生徒への登校支援としてオンライン上での「バーチャル・ラーニング・プラットフォーム」の活用など、日本語指導や障がいがある児童・生徒に寄り添った指導の充実を図る。